

議 長 それでは、休憩を解いて再開します。 (13時30分)

議員の皆様には時間短縮に御協力をお願いいたします。

受付番号第4号、内田晃君の一般質問を許します。登壇願います。

3 番 内 田 議長のお許しが出ましたもので、質問させていただきます。受付番号第4号、質問議員、第3番 内田晃。件名、町無形文化財松田大名行列について。

要旨、松田町の伝統芸能である松田大名行列は松田町のシンボルであり、明治の後期から現在まで100年以上受け継がれており、観光まつりの花形として町内外の方々の目を楽しませております。

そこで、次の3点について御質問させていただきます。

(1) 町の無形文化財にした経緯並びに歴史について、どのように認識されているのか。

(2) 大名行列を継承していくために、町補助金と町民からの会費により運営しているが、町としての支援の考えはあるか。

(3) 過去県内外の自治体からの出演依頼を受け、参加しているが、今後それらの自治体との産業、文化等の交流をしていくお考えはあるか。

以上、御答弁をお願いいたします。

教 育 長 内田議員の御質問に順次お答えいたします。まず、1点目の町無形文化財にした経緯並びに歴史に関しての御質問についてお答えいたします。町で古くから伝わる大名行列の歴史につきましては、その起こりは江戸時代までさかのぼると言われ、明治4年、新政府による廃藩置県の改革により小田原藩主であった大久保氏が東京に移住させられるときに、松田の人が奴ぶりの伝承の願いを申し入れ、認めていただいたのがきっかけと伝えられております。当初は、寒田神社の祭礼時にみこしなどの行列に組み込まれて披露されておりました。時代の流れで一時期休止するという危機もありましたが、伝統の技は大名行列保存会によってしっかりと守られ、現在に至っております。

そうした中で、貴重な地域の伝統文化を守り、伝えていくために、昭和46年に町の無形文化財として指定されました。その後、大名行列は、昭和52年に神奈川県民俗芸能50選の1つに指定され、昭和53年から、寒田神社の例大祭から町観光協会主催のまつだ観光まつりで披露されるようになりました。このような歴

史ある大名行列は、町にとって重要な無形文化財であると認識しており、地域伝承の文化を後世まで残していかなければならないというふうに考えております。

次に、2点目の大名行列を継承していくための町の支援に関する御質問についてお答えいたします。大名行列保存会の活動につきましては、大名行列を後世まで残していくことを目的に町へ補助金申請がされ、大名行列保存会が設置された昭和51年度から補助金を交付しております。保存会活動に当たりましては、町の補助金のほか、町民の皆様方から会費により成り立っていると認識しております。しかしながら団体関係者から、町民から会費を徴収することの理解が難しくなってきたと、そういう意見をいただいているところでございます。このような中、大名行列保存会については、町にとって重要な無形文化財、引き継ぐべき伝統文化であると認識しておりますので、補助金については、可能な限り維持していきたいと考えております。

次に、町の補助金のほか、町教育委員会が行っている支援について答えさせていただきます。大名行列を伝承するため、中学生の民俗芸能伝承教室を行っております。この教室は、昭和63年度から始まっており、大名行列保存会員を指導者として迎え、中学生が夏休みの期間を利用して大名行列奴ぶりの型を学んでおり、観光まつりで演技を披露しております。

小学生につきましては、昨年度までは、4年生が総合的な学習の時間を使い、大名行列保存会の方々から大名行列の歴史と演技を学び、観光まつりで演技をしていました。しかしながら、今回の学習指導要領の改訂により教科が増加したため、授業数の確保が困難ということで、小学生での演技の学びはできなくなりました。そこで、今年度から、寺子屋まつだにおいて対象を4年生から6年生までに広げた伝承教室を実施し、まつだ観光まつりの大名行列に参加することで、小学生も伝統文化の継承と推進を行っております。さらに、幼稚園は平成12年度から、松田さくら保育園は平成25年度から観光まつりに参加しております。

このように、大名行列保存会と町とが連携し、次世代を担う子供たちへの伝統を残す取り組みに努めております。今後も連携した取り組み支援を継続して

進めてまいります。

次に、3点目の今後の県内外の自治体との産業、文化等の交流についての御質問についてお答えいたします。まず、これまでの大名行列における自治体との交流ですが、過去松田町から北海道美幌町に足柄奴が伝わっている歴史を縁に、平成3年から両町の交流がありましたが、平成20年からは交流がなくなっています。このほかには、平成26年に東京都品川区のしながわ宿場まつり、平成21年、昨年令和元年に山形県河北町の谷地どんが祭りに松田大名行列の保存会が招待されています。さらに、平成29年には、相模原市小原宿本陣祭での小原宿本陣大名行列、静岡県磐田市のいわた大祭りでの遠州大名行列との共演が実現しました。また、平成29年のまつだ観光まつりでは、松田大名行列に加え、静岡県磐田市の遠州大名行列と神奈川県相模原市の小原宿本陣大名行列が参加し、華やかに彩りを添えるなど、全国各地の祭りごとで本町の名大行列を通して文化交流を図ってきております。今後もこうした自治体と産業や文化等の交流の機会があれば検討していきたいと思っております。

また、現在、本町では、姉妹町である横芝光町との互いの発展と向上に資するため、産業、防災、文化、スポーツなど、さまざまな分野で交流を深めております。これからも両町の絆を深め、相互の町の交流により、世代間の交流や居場所づくり、人づくりにつながる取り組みを推進してまいりますので、御理解、御協力をお願いいたします。以上でございます。

3 番 内 田 御答弁ありがとうございました。ただいま、教育長の名大行列の歴史並びに無形文化財の御認識につきましては、よく調べて御答弁されたと、そのように感じております。

また、名大行列の歴史については、残念ながら詳しい文献というのはほとんど残ってございません。大分前にお亡くなりになりました井上清氏が御自分で調査、研究をされ、また先人からの話をもとにしたものが、教育委員会が発行している「松田の史話」及び「まつだの歴史と文化財」等書かれております。明治の初期から100年以上、現在まで引き継がれていることに鑑み、井上氏が書かれたものが真実であるということは今後捉えていって傳承しなければいけないと、そのように考えております。

そこで、一つお伺いいたしますけど、先ほど教育長からもお話がありましたけど、現在、生涯学習系のほうで中学生を対象に民俗芸能伝承教室を実施されておりますが、これにつき、私も当初からずっと携わっておりましたが、実はここ数年気になっていることがございます。それは年々参加者が減少しているということです。これは事実かどうか、ちょっと私では定かではありませんが、中学生が地域社会活動に参加すれば高校入試等の際の評価の対象になっているということが数年前からあったんですが、それが近年その制度が見直されたと同時に参加者が極端に減ってしまったということです、その制度があったということは事実でしょうか。

教 育 課 長 参加人数につきましては、議員さん御指摘のとおり、平成20年度の32名が最も多い参加でございました。その後、平成23年度まで比較的早い段階に参加人数が、学校から提出された名簿で参加人数が多かったというような現状がございました。

先ほど入試制度で地域活動が、地域社会に参加することで評価の対象になるといったこととございますが、これは、平成24年度に入試制度が改められました。その前には、24年以前は、前期と後期といった入試制度が分かれており、前期試験を受ける際に内申が重視されていたこともございまして、地域の行事に参加する生徒も多くいたと、こういったことで推測されます。その後、平成25年度から議員さんの御指摘のとおり参加者が10人台となりまして、平成30年度は9人と最も少なくなった現状がございました。これは、生徒自身が塾などに通うなどの多忙化などにもよると思いますが、年々減ってきましたが、今年度、令和元年度につきましては20人の参加ということで、おかげさまで増加したような経過があります。以上です。

3 番 内 田 ありがとうございます。今の御答弁では、平成24年度までということで、そういう制度があったということなんですけど、やはり当初の教育委員会のこの伝承教室の狙いというのは、町のこの伝統文化を若いうちから体験していただき、後世に継いでいっていただきたいというのが一つの大きな目的だったと思うんですけど、なかなか今言ったような、その入学のときの評価のためというあれが強かったのかなと、私もこの指導をしている中で強く思ったわけでござ

います。

それともう一つ、この学校の、中学校の考え方もいろいろありまして、その当時の校長先生の考え方によって参加者の人数が大きく左右されたというのも事実でございます。この事業に非常に理解がある校長先生のもとでは、積極的に生徒に声をかけて参加者を募ってくださる先生もおられたんですけど、全くというほど無関心な先生も当時おられました。今後、この伝承教室を続けていくとするならば、参加者の確保について、今後どのような考え、方法をとっていくのか、お聞かせください。

教 育 課 長 内田議員の御説明にあったとおり、年によってはなかなか人数も集まらず苦慮したこともございました。そういったときは、特定の運動部に頼りだりして何とか人数を確保した経過もございました。今年度の中学生を集めるチラシの中では、松田に住んでいるなら郷土の文化を体験してみたいはいかがでしょうかといった、こんな呼びかけをしております。これは、子供たちが地域の文化を知り、興味を持ち、実際に体験、参加、発表する取り組みを通して、担い手の育成や、伝統文化や芸術の次世代への継承と、地域、つまり町へ愛着を持っていただきたいという狙いがあるって、チラシにそういったことを書かせていただきました。

学校の先生によって熱の入れ方が違うというようなこともございましたが、今後は、これまで以上に学校と連携した上で協議をして、なるべく大名行列に参加して文化を継承していただけるように教育委員会としても努めてまいりますので、御理解、御協力をお願いしたいと思います。

3 番 内 田 ありがとうございます。先ほど、教育長の歴史認識の中でもお話がありましたけど、現在、今、幼稚園生、小学生、中学生、大人といったこの4世代が一堂に会するこの大名行列は、ほかの地区にはまずないと思います、全国的にも。それが最初私たちが取り組んだときに、各世代の子供たちが一堂会してこの町の無形文化財を大切にしていこうという取り組みが今実って、行っているわけでございます。ぜひ今後とも伝承教室の意義を、生徒それから学校にも十分御理解いただき、継続していくよう、よろしく願い申し上げます。

次に、補助金の関係等でございますけど、御存じのとおり、大名行列の運営に

つきましては、町からの補助金と町民からの会費によって賄われております。会費徴収につきましては、先ほど教育長もおっしゃいましたが、これは自治会長等が各地区のところを回ってお願いして集めているわけですが、以前はそれほど苦労しないでも協力していただいたということですが、近年、簡単に言えば、おじいさん、おばあさんがいられたときは、はい、はいという形でくれたところが、もうだんだん世代がかわって若い世代の家になったときには、もうなかなか理解してもらえない。もう私はいいですという方と、反対に、この地区には大名行列は来ないのに何で出さなきゃいけないのというようなことをおっしゃる方もいて、なかなか苦労しているということを聞いております。

現在、町の補助金は、一番最初は100万円、それから90万円に減額され、今から十数年前には75万円ということで、現在もその75万円の補助金をもらっておりますが、それ以降見直しはされていませんが、近年は、その大名行列に出た場合の消耗品、特にわらじとか足袋、その他消耗品の価格も高騰しており、クリーニングに至っては、町の補助金の80%にも達していると伺っています。80%といたら60万ですね。それほど特殊な衣装ということで、クリーニング代が高くなっているということで、今後、町のシンボルでもある大名行列を絶やすことなく後世に伝えていくため、補助金の増額等、なお一層の支援をしていただくお考えはございますか。

教 育 課 長      ただいまの御質問のとおり、現在補助金につきましては、十数年前から75万円ということで交付をしております。ただ、平成29年度、先ほど答弁もありましたが、他町交流の際には100万円といった、特別な事業をやった場合は増額した経過もございます。この補助金は、御質問ありましたとおり、消耗品のほかにですね、事業費、管理費、修繕費、資料作成費、こういったものに補助金が充てられております。消耗品、なかなか特殊なものでもございますので、新しく会長もかわったことでもございますので、その辺はよく会長ともお話をしまして、補助金の継続をしてまいりたいと思っています。また、内容につきましては、会長ともよくお話をして、情報交換をしてまいりたいと思っております。

3 番 内 田      ありがとうございます。そうですね、消耗品の場合はね、先ほど私が言った消耗品の場合は、買えばできるんですね、わらじにしる足袋にしる買うことが

できます。ただ、御存じのとおり、大名行列の道具というものは、もう昔から使っている古いものでございまして、一旦壊れた場合ね、その修繕料、また修繕がきかない場合は新たに作成する場合、相当な金額が予想されます。そういう面からも、今すぐどうしろというわけではございませんけど、そのときになって、これは保存会でやってくれという、なかなか無理な場合もございまして、その点についても今後前向きに御検討してくださるよう、よろしく願いいたします。

次に、質問の3番について再度質問させていただきます。大名行列も近年、県内外さまざまな自治体から出演依頼があり、遠くは、先ほども教育長おっしゃってますけど、北海道の美幌町、そして昨年9月には、これは町長も同行していただいて参加していただきましたが、山形県の河北町の全国奴まつりにも参加しました。この奴まつりは、第1回目に呼ばれて、去年で2回目、再度御招待されたものでございます。また、一昨年は静岡県磐田市、それから相模湖町の小原のお祭りにもここにいらっしゃる田代副町長、また前教育長の吉田教育長も御同行されて、田代副町長が皆さんの前で御挨拶していただき、今後何かのときの交流を持ちましょうという御挨拶をしていただきました。その他県内数々の催し物にも招かれています、これらは松田町にとってすばらしいPRにもつながっていると思われまますので、今後、青少年の交流、または産業、文化の交流を積極的に図っていき、それらの自治体とのつながりを一層図っていただきたいと思いますけど、再度御答弁をお願いしたいと思います。

教 育 課 長 全国各地の大名行列を通しまして、イベントに参加したりすることもございまして、町の一つの売りになっていると思えます。また、町のマスコットキャラクターにも大名行列の顔がマスコットとして認定されたところもございまして、文化を継承する教育委員会からの立場としましては、文化を継承する、伝承するというのは大事なことでございますが、そういった観光からの面を通しまして、これまで交流してきた市町とどういったことができるか、取り組みをどういったこと、それが相互の町にどのようなメリットにつながる取り組みができるかというのを十分に検討してまいりますので、御理解、御協力をお願いしたいと思います。

